

## 令和3年度高知県・高知市連携会議

日時：令和3年10月14日（木）14：00～15：15

場所：県庁 第二応接室

---

（司会）

ただいまから令和3年度高知県・高知市連携会議を開始させていただきたいと思います。  
最初に濱田高知県知事からご挨拶申し上げます。

（濱田知事）

それでは、開会に当たりまして一言ご挨拶を申し上げます。本日は岡崎市長を始めといたしまして高知市の皆様には、県庁までご足労いただきましてありがとうございます。また、日頃より高知市の皆様方には、県民の約半分を占めます高知市民の皆様相手に様々な行政の分野でご尽力いただいております。特にここ1年半ほどは、新型コロナウイルス対応大変ご苦労いただいております。心より感謝を申し上げます。本年度はこのコロナ関係の影響もございまして、例年ですと夏休みの終わりの時期に開会をしてきたかと思いますが、若干遅れての開催となりました。これまでの事務レベルでの協議から始まりまして、中澤副市長また松島副市長にもお力添えいただきまして、それぞれ県市の部局間で議論を積み重ねてまいっておりました。最終的には知事と市長との間の協議という形で例年開催しておりますけれども、そこに至る過程の中で各部局色々なレベルで議論を積み重ねさせていただいて、意思疎通ができていくということがこの会議の大きな意義ではないかというふうに考えております。

本日もこの新型コロナウイルス関係の第6波に向けた備えということをはじめといたしまして、デジタル化の問題あるいは地域共生社会の実現の問題等々大きく3分野7つの項目について協議をさせていただくということでよろしくお願ひしたいと思います。改めて申すまでもありませんが、県市がしっかり連携をして高知市民の皆様をはじめとする県民の皆様にとり行政サービスを展開していくということが何よりも県政をしっかり進めていく上でも大事なことだというふうに考えておりますので、本日は実り多い議論ができますことを期待いたしまして、どうかよろしくお願ひを申し上げます。

（司会）

続きまして、岡崎高知市長、よろしくお願ひいたします。

（岡崎市長）

日頃から高知県の皆様、特にこの間のコロナ関連では昨年、また第5波の8月から9

月にかけて本当に精力的にバックアップしていただき、感謝申し上げます。先ほど衆議院が解散となり、特にコロナ対策でいいますと、非常に内容にも精通しておられた田村大臣、河野大臣それから西村大臣がそれぞれ交代しましたので、これからどう動くのか心配もしながら、今後の国の動向を見据えていかなければいけないと思っています。また濱田知事におかれましては、全国知事会の新型コロナウイルス緊急対策本部のワクチンチームリーダーということで、我々も大変心強く思っております。3回目のいわゆるブースター接種が12月ぐらいから医療関係者から始まっていくというスケジュールになっておりまして、まだ詳細がいろいろ出てきていませんが、いろんな準備に入っていきたいと思っています。県市がスクラムをがっちり組みながら、市民、県民の皆様方の健康と福祉を増進させていくことが我々の大きな責任でございますので、本日はよろしくお願い申し上げます。

(司会)

それでは、早速ではございますが協議項目に移ってまいりたいと思います。最初に、新型コロナウイルス感染症対策につきまして(1)の「第6波に向けた備え」の取組につきまして知事からお願いいたします。

(濱田知事)

それでは新型コロナウイルス関連の関係につきまして、私のほうからまず、1回目2回目までのワクチン接種の完了に向けてということでございます。春先以降、高知市さんを始めとして県内の市町村の皆様方には、一方ならぬご尽力をいただいております。お陰で県内では、この10日の時点で2回目の接種を終えた方が約74%までいきまして、全国より4、5ポイントぐらい先行するような形で順調に接種が進んでおります。一言で言いますと、人口の半分を占める高知市で、スムーズに進めていただいているということが県全体として全国でもアヘッドする形で進められているということの大きな要因だと思っておりますので本当に有り難く感じております。そして今後の第6波への備えということからしましても、また、社会経済活動の回復を図っていくための前提条件としてということで考えましても、特に若い世代を中心にまだ2回の接種を終えてない方々の接種率を高めていける限り高めていくというところが必要な状況だと考えております。我々のほうも8月の新規感染者のデータを分析しまして、一言で言いますと2回接種が終わった方々で2週間経った方々に関しては感染のリスクが39分の1という数字をお示ししまして、また接種をされた方の中には8月のデータを見る限りは重症になった方はおられないということをお知らせして、そういったことをご理解いただくことがやはり接種率向上の後押しになるという考え方でPRもしております。高知市さんにおかれましても2回目の接種終盤戦に今来ているという感じだと思いますけれども、接種率の向上に向けてさらなる対応をぜひよろしくお願いしたいと思います。

それから3回目のいわゆるブースター接種に関して、国のほうから全体像が少しずつ出

てきているということだと思いますが、詳細がまだ明らかになっていない状況だと思っています。早ければ12月から自治体での接種を開始する必要があるということになりますので、市長のほうでも既にアナウンスは始めていただいているというように思っておりますけど、市でも接種券の準備等々いろいろな対応が必要になってくるということだと思しますので、我々も全国知事会などを通じまして、また今お話ありましたようにワクチン接種は色々な取りまとめをやるということで私のほうに仰せつかっておりますので、全国的な情報や動きなどについても把握をしやすい立場になると思いますし、それを踏まえて国に色々な提言や要望をしていくという上でも正しく現場の市町村の課題、状況をよく私自身も勉強しておく必要があると思います。そういった意味でも3回目のブースター接種におきまして、いろいろな課題等々につきましてもお申し入れいただいて引き続き連携して取り組みたいと考えておりますのでよろしくお願ひします。

コロナの関係のほうの3点目、最後に病床や宿泊療養施設の確保の対策についてです。8月の後半からの第5波の流行によりましては、県内でも療養者数が一時最大744人と本当に桁違いの数字になりました。宿泊療養施設もキャパが足りないという状況になりましたので、やむを得ず一部の方には自宅での療養をお願いしました。医療機関での医療を受けたりあるいは宿泊療養の必要性があるリスクの高い方、そうした方に医療機関あるいは宿泊療養施設に入っていただくというための優先順位の問題としてやむを得ず比較的症状の軽い方、無症状の方には自宅をお願いするというような対応になったわけではありますが、この際にかつてない感染拡大という状況でしたので、高知市におかれましても数百名に及ぶような自宅療養者への対応ということを余儀なくされるという状況になりまして、人員の確保や資機材の提供に大変なご苦勞をいただいて対応いただきましたことを感謝を申し上げたいと思います。時点時点では、高知市さんも我々もベストを尽くしてきたという自負はありますけれども、それでも非常に感染拡大中だったこともありまして、マンパワーの確保やパルスオキシメーターなどの資機材の調達などに若干日数を要したという課題があったということは率直に認めなければならぬかなというふうに思います。国からも、第5波と同様の規模あるいはそれ以上の感染拡大が今後冬場に向けて想定をされるということも前提にして、保健所等の体制確保も含めました新しい保健・医療の提供体制の確保計画を11月末までに策定をするようにというような要請が来ているということでもあります。そうしたことを踏まえまして、県では岡崎市長にもその時期をご心配をいただいた話でもありましたけれども、医師会とも相談をしながら必要な場合には臨時医療施設、一時野戦病院と言われましたけれども、そういった対応も必要であれば採り得るような、まずは設計図的なものをちゃんと作っておくということなんだろうと思います。これを含めまして、さらなる病床確保や宿泊療養施設の収容能力の確保ということに今取り組んでおりまして、先ほど申し上げたようなスケジュールからいいますと11月中には目処を付けて新しい計画にまとめていかないといけないと思っております。感染拡大になりますと、県内の感染者のほぼ大半は高知市にお住まいの方というようになるということのも経験則だと思しますので、

高知市におかれましても自宅療養者への医療提供体制確保あるいは保健所体制の確保ということにつきまして、これは我々も一緒になってやってまいりますので、ぜひ連携をしっかりと取らせていただいてご協力をいただければというふうに思います。

(岡崎市長)

迅速に県のほうも対応していただきまして、感謝を申し上げます。まずワクチン接種の状況ですが、昨日の状況でいうと、我々は接種対象者人口に対する割合を出しております、国は全人口に対してですので、若干違いますけれど、全体では、昨日の段階で1回目の接種済みが79.6%、2回目が71.5%となっています。高齢者の方は、1回目の接種率が89%ということで、90%台に近づいており、大体終了している状況になっています。特徴的なのは高校生の接種率が高いことです。多分、これから受験がありますし、いろんな体育大会とかスポーツもあるので、16歳から19歳はほぼ高校生だと思いますが、昨日の段階で1回目の接種率が69.5%でして、20代の接種率より随分と高くなっており、2回目の接種率が55.2%ということで、高校生が率先して接種している状況が見られます。やはり20代が若干気になりますが、低いとは言われながらも、20歳から29歳までが64.9%、1回目の接種をしており、2回目がまだ41%しかないのも、ちょっと間が空いていますが、大体1回を接種されれば、2回目も接種されますので、まずまず順調にいつていると思いますが、なお20代のワクチン接種の促進、推進を働きかけていきたいと思っております。3回目のワクチン接種については、まだ詳細が十分分かっていませんので、とりあえず、分かっている範疇で接種券の発送の手順など、特に接種券は印刷発注業務がありますので、今のところ一部様式が仮で出されていますが、確定したらすぐに発注の手続に入らないといけないので、そういった準備をしている状況です。

先ほど濱田知事からもお話がありましたが、この県のグラフはよく使わせてもらっておりまして、第5波の8月、9月で過去最高になりましたので、この後の議題にあります事業者支援にあたっての考え方は、この2か月分を基本的に支援するというので、この2か月を対象にして算定した予算となっています。先ほど744名と話に出ましたが、高知市でも毎日80人単位で新規感染者が出ましたので、ホテルがすぐ満室になりまして、そこから自宅療養が急に始まりましたので、大変な状況になりました。自宅療養は、やはり家族に感染しないかという不安が非常にありますし、当初パルスオキシメーターが十分にありませんでしたので、初期の3日間ぐらいの段階では、寄附をいただいたりしましたが、100個弱ぐらいしかなくて、それから500個を発注する感じだったのですが、すぐは入りませんでしたので、非常に不安にさせたということで、我々も申し訳ない思いでした。やはりホテル療養のほうが入られている方も安心できますので、できる限り自宅療養は避けていただいたほうがいいのかということと、市内一円に患者さんがおられて、食事の発送などで職員に負荷が相当かかりますので、ホテル療養を中心にしていただければというお願いでもございます。

それから、第 6 波がいつ来るのかまだ分かりませんが、大体の専門家の方々は乾燥する冬場に来ると言われています。県のほうでもこの臨時医療施設の設備についての検討をスタートしていただいておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。ホテル療養がやはり重要になると思ひますので、ホテルの確保もまたよろしくお願ひ申し上げたいと思ひます。自宅療養が 600 人近くになったときは、高知市の保健所もほぼパンク状態になりましたので、保健師を全員集めまして、保健所に一挙に投入しました。大体このときに 70 人ぐらいの専門的なスタッフをまず投入しました。食料の支援とかは事務方でできますが、やはり聞き取って一定指示をするのは事務方では少し無理なので、保健師か看護師のスキルが必要ということで、保健師にもかなり負荷がかかりました。第 6 波に備えていろんな準備をしていきたいと思ひます。臨時医療施設やホテルの確保をよろしくお願ひしたいと思ひます。

(司会)

それでは続きまして、(2) の事業者支援・観光需要喚起策について市長からお願ひいたします。

(岡崎市長)

9 月議会に向けていろいろと準備をしていましたが、まん延防止等重点措置の期間に入ったので、予算を 10 月の臨時議会に送りました。先週の金曜日、今週の月曜日の 2 日間で臨時議会が終わったところですが、その中で一定の事業者支援策を計上しています。配付しております高知市の配付資料ですが、まず、事業者支援のうちの 1 枚目の飲食とタクシーの促進事業ですが、今回飲食関係とタクシーをセットにしたクーポン券を 6 万枚構えています。5,000 円の飲食チケット、それに 1,000 円のタクシーチケットを乗せて 6,000 円のチケットを 6 万セット構えています。直接効果だけで 3 億 6,000 万円近くありますので、間接効果でいうと 4 億円以上効果があると思ひますので、これの売出しを始めます。使えるのは大体 12 月中旬ぐらいから 1 月の末まで。年末年始に使っていただくということで、発行の準備に入っています。

二つ目ですが、資料②ですが、昨年、令和 2 年度に 2 回、中央公園で TSUNAGU マーケットを開催しました。ちょうどお土産のお菓子等が結構売れ残っていた時期なので、そういう業種の方々からも非常に喜ばれて、大体 2.2 万人以上の入店者がありました。これを来年の 1 月の 22 日、23 日に中央公園で開催したいと思っております、農産物の出品も構わないことにしていますので、50 店舗ぐらい集めて TSUNAGU マーケットの開催をしたいと思ひています。

それから三つ目は、酒販事業者、各地域にあります酒屋さんですけれども、これまであまり支援ができていなかったもので、第 5 波で影響を多く受けていることを一つの算定の根拠にしまして、2 か月で 30%以上売上げが落ちていることは間違いないと思ひますので、

法人の場合は2か月掛けますので40万円。個人の場合は20万円を上限にして、酒販事業者の皆様方を中心に支援をしていくものを予算組みしています。

それから資料⑤ですが、県のほうも融資は手厚く支援をいただいておりますので、我々も大変助かっているところですが、少し長引いており、資金ショートしかかっているというお話もありますので、1,000万円のいわゆる短期資金融資で、これを満期一括償還にしておりまして、単年度で終わりではなくて、最長5年まで1,000万円を融資で引っ張れるという形にしており、10月1日から金融機関でもう貸出しを始めております。まずまず順調に今貸出しが行われております。全体融資額としては50億円を想定しています。

それから旅客運送業の中では、特に個人タクシーを含めタクシー業界が逼迫しています。1台当たり5万円で、2か月で10万円という設定で支援することにしておりまして、県市で役割分担をしておりますけれども、それぞれ10月の臨時議会で補正予算を認めていただきましたので、執行に入ることにしております。今後も県市で役割分担をしながら、できるだけ資金ショートを起こさない形での事業者支援をしてまいりたいと思います。

(濱田知事)

県も、持続化給付金をまたお願いしたいと言っているのですが、なかなか堅くて、そうした中で我々県のほうは、3段階で支援制度を飲食店関係を中心に持って、1点が国の制度に乗っかっていわゆる飲食店の協力金で、2点目がその取引先ですね。お酒の販売業者などを含めて。この業種は幅広くとって、ただし30%以上切り上げるところということで、ただ極端な話、時短要請をしなかった飲食店、地域の飲食店も給付金オーケーですよということにしていますので、結構幅広く拾えるような制度を2層目で構えまして、もう一つ比較的規模が大きいところが支援が逆に手薄だというご意見もありましたものですから、従業員をたくさん雇われていて社会保険料なんか払っているところに、従業員の規模に応じて社会保険料の支払いに応じた給付金を三つ目のレイヤー、制度として支援をしていくということ。3本立ての制度で、昨年来の第3波、第4波、第5波という支援をしてきております。国のほうで手薄だったところを県でそれなりにカバーをしてきたということは自負はしているのですが、今回はさらに高知市さんのほうでこういった形で、特に影響が深刻な業種を絞った形でより具体的に業種ごとにこうした形で支援メニューを構築していただいたのは大変有り難く思っております。各事業者の方々もそれぞれの事業活動に応じて需要喚起をしたり、あるいは資金手当を可能にしたりということをやりますから、恐らく事業者の人も大変喜ばれてるんじゃないかと思って拝見しております。ありがとうございます。この点以外には、県のほうでもう少しご紹介しておくと思いますと、予算としては6月補正予算で計上しまして、もう既にかなり動いているんですけども、特に業績の回復を狙って新分野への展開とか業種転換をしようというところに対しまして支援する「新事業チャレンジ支援事業費補助金」とその事業者負担分に対する融資制度・利子補給制度を創設しております。これは事業者が反転攻勢で新分野に進出するときに応援をしていきま

すよというメニューでございます。県の支援策と市の支援策で役割分担をしながらいい形でできつつあるんじゃないかなと思っています。引き続き、それぞれの支援措置の状況や効果といったものの情報交換もさせていただきながら、今後 V 字回復となってくれば一番いいわけですが、今後もぜひ情報共有を図りながら連携をして事業者への支援ができれば有り難いなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(司会)

それでは次に観光需要喚起策についてお願いします。

(濱田知事)

観光需要の回復に関しましては、県の資料のほうでチラシが二つ入っておると思いますが、このチラシの前にちょっと口頭で説明させていただきますと、先月の半ばぐらいから段階的に観光関係の需要喚起策をやっているというのが全国的な方向になっていることもありまして、10月1日から県の二つのキャンペーンを再開しています。リカバリーキャンペーンという交通費用の5,000円を上限に助成をするというものと、トク割キャンペーン、これは県民の方々の県内旅行に対して宿泊料とかを支援していくという事業を10月に入りまして再開をするということで今取組を始めているというところで、他県の感染状況も落ち着いてきておりますので、そういったものを見ながら徐々に県外からお見えの方への適用も拡大をしていくという方向で検討していきたいと考えています。そして、お配りしておりますチラシの一つが冬場のナイトタイムエコノミーということで、11月19日から1月10日にかけて、高知城での大規模なイルミネーションイベントです。ちょうど10月からはJRグループの四国デスティネーションキャンペーンも始まっているということでありまして、その目玉イベントの一つということでこれもぜひ後押しをしていきたいと思っております。こういった事業を実施するに当たりまして、やはり高知県内でも随一の集客を誇っておりますのは高知市のエリアということになりますので、高知市におきます取組と連携を図っていくということが必要だと考えておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。もう一枚のチラシは先ほど言った交通費用助成、リカバリーキャンペーン、これは10月から動かし出してございまして、とりあえず動かし出しているのは県民の方々が県内で泊まるというところからスタートしてはございますけれども、これも段階を追って県外にも拡大をして県外からおいでいただけるようなことも後押しをしていきたいと思っております。

(岡崎市長)

10月の市議会でお認めいただいた予算が資料⑦からでございますので、よろしくお願いいたします。まず旅館ホテルですが、第5波の影響が相当ありましたので、計算式が右側にありますが、この8月、9月に第5波の影響を受けたということをベースにして直接支援

をするようにしております。計算式は、前回の約7億5,000万円の支援をしたときの計算式と基本的には同じですが、今回は2か月分ということにしています。上限は1,000万円ということで、上限に当たるところは大体6か所ぐらいです。平均すると大体数百万円程度となります。

それから2点目が先ほど濱田知事から少しお話が出ました団体旅行です。今、個人旅行は動いていますが、団体旅行はほぼ皆無になっていますので、これをちょっと動かしたいと思っております。基本的にはバスツアーを中心にしていますが、右側にありますように、お客様お一人当たり5,000円を負担して3万2,000人泊、1億6,000万円の予算を組んでおりまして、バスツアーのパンフレットなど一定の配布物を作っていただく費用もかかりますので、その部分もこれに含めております。10月1日から申込みを開始していますが、既に予算枠の85%が出ています。3万2,000人泊のうち、2万7,000人泊が既に交付決定済みとなっております。これを待っているという感じが非常に見受けられます。国のGoToトラベルは今ちょっと実証実験中ですが、どこかで再開すると思っておりますので、各都道府県がやはり引っ張り合いになることを早めに気を付けておりまして、対象期間は11月19日から2月14日までとしておりますが、ご覧になると分かりますけれども、85%ぐらいは交付決定済みになって、バスツアーもこれから動いてくると思っております。

それから、資料が多少前後しますが、資料⑩では、公共交通機関への支援がベースになっていますが、とさでん交通も特に観光バスが動いていませんので、相当逼迫しています。事業所への直接支援の形態は採っていますが、利用者の皆様にも還元できる形を採りたいと考えまして、11月3日から来年の1月31日まで、日曜祝日、年末年始をバス電車無料デーにするということで、その関連の予算も組んでおります。基本的に日曜祝日は無料で乗り放題になります。高知市内外から相当バスが入っており、一番遠い路線は安芸市から出発してきますが、高知市に入ってくるのでそれも無料にします。いの町の方々は電車等で大体来ていますが、いの町から電車に乗って市内に来る場合も無料にしようということで、これに併せてとさでん交通でもいろんなイベントを用意していただけることになっているのも一つと、バス電車が無料になるのはなかなかないことなので、例えば万々商店街とか、バスが頻繁に走っている所で、このキャンペーンを利用して商店街への誘客ということを設定しております。帯屋町商店街には話を持っていっていますし、万々商店街とも今後協議をしていきます。例えば周辺部の長浜、三里から高知市内に出てくるのも1,000円程度お金がかかりますので、日曜日になると11月3日から1月31日までの間は無料になるので、中心市街地へ出てきませんかということで、市民の方々にもメリットがあるような形で、中心商店街も潤うというのを目指していこうというものです。全国的に見て、多分、県庁所在都市では初めての取組と思っておりますので、効果がどうであったかというのは国交省がデータを求めてくるのではないかと思います。そういうことにも協力をしていただくことも考えております。

資料一つ戻りまして、修学旅行ですが、教育旅行と言われておりまして、主に関西が多

かったのですが、関西が止まりましたので四国の中でも大分振り替えが出ております。グラフは去年の実績ですが、過去の行き先というところを見ていただいたら、関西が6割くらいを占めているので、USJとかが多分ターゲットに入っていると思いますが、沖縄、関東、それから平和学習ということで広島に行っていたようです。我々もそんなに予算を組んでいなかったのですが、去年の実績で34件となっています。令和3年度の上半期ですが、申込みが88件で61件決定していて、去年の実績を上回っていますので、割と少ない経費で修学旅行の誘致ができていくという状況ですので、こういう展開がまだ増えると考えています。幾つか新しいものを取り入れていますので、その効果も含めまして県市連携でいろいろ分析して、また生かしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(濱田知事)

新しい取組を含めて意欲的なメニューをそろえていただいて、大変有り難いと思っています。特にお話のありました教育旅行は、県内全体としてもこのコロナ禍で例外的に健闘している分野でもありまして、今年の5月には県と観光コンベンション協会、それから県内の各地域の広域観光組織等をメンバーとする教育旅行誘致連絡会なる組織も作りまして、取組を進めてきております。これで県内各地中山間地域なんかも体験プログラムも使ってもらえればと思っていますが、宿泊のキャパシティ考えますと、例えば関西圏から大きい学校が来られて例えば一学年300人というようなことになると、やはり高知市内の宿泊施設を使っていたかないと、中山間地域でそれだけキャパがカバーできないということがありますので、高知市内に泊まっていたら、自然体験は中山間地域にも行って体験していただくというような形でいけば、県内全体ウィン・ウィンで教育旅行の受入れができるということもあるかなと考えておりまして、そういった連携も含めてぜひご協力をいただければというふうに思っています。

あと全体を通じまして、特にリョーマの休日キャンペーンということで自然体験を軸とした観光キャンペーンを続けてきておりますけれども、来年年替わりのところでいよいよ本格的な観光需要の回復ということが望めるのではないかとことを一応想定におきまして、1月からこのリョーマの休日キャンペーンの中身を大幅にリニューアルしたいと考えています。今観光の事業者さんとも相談していますが、その際に一つ売りにするもの、いわゆる食の分野ですね。高知の食をぜひ季節と組み合わせて売っていきこうと、情報発信していこうということで、戦略的にやっていきたいなというのは相談を始めておりますので、これについてもぜひ、何遍も申し上げますが、大きなホテルは高知市内というのがどうしても頼みになりますので、高知市のエリアと県内全体がうまく連携強化をして、全体が盛り上がっていくという形でできればいいなと思っておりますので、またご協力よろしくお願いいたします。

(岡崎市長)

カツオは冬場になると山陰のカニに負けてしまうので、冬場の高知に、もう一品作りた  
いですね。何か冬場のものをもう一つ構えればまた勝負できます。

(濱田知事)

今の案では鍋と土佐酒で楽しんでいただくということを言っていますが、確かにライバ  
ルはカニかもしれません。

(岡崎市長)

カニに何とかして負けないように、またよろしく願いいたします。

(司会)

それでは(3)のデジタル化の推進ということで、中山間地域におけるICT利活用とデジ  
タル活用支援の一体的な推進につきまして、市長からよろしく願いいたします。

(岡崎市長)

コロナ禍で高知市はICT利活用がずっと遅れていましたが、国の臨時交付金もありまし  
て一気に整備が進みました。全ての教室にはなかなか入れられなかったのですが、タブレ  
ットが一人1台ずつ行き渡りまして、非常に感謝をしております。今、松島副市長をキャ  
ップにしまして、光ファイバーを引っ張っていただいております。順調に進んでいます  
ので、来年の3月には鏡・土佐山地域に光ファイバーが入っていきます。ご承知のとおり  
ICTはやはりハードよりソフトのほうが重要ですので、鏡・土佐山ブロードバンド利活用協  
議会を早期に立ち上げ、5月に中間の取りまとめをいただき、細部を今詰めているところ  
です。地元の方や専門家の方々からいろんなアイデアをいただいております。ブラッシュ  
アップの作業を行っているところです。結構たくさん意見が出ていますが、まだ調整中  
なのでイメージでいうと資料⑩ですが、遠隔による健康管理とか健康相談、それから有害  
鳥獣の特にイノシシの話が出ておまして、有力なツールが幾つか出ています。すぐに実  
用化できるものもあると思います。あと中山間地域ですので、オンラインでの健康相談も  
期待されておりますので、どこまで可能かどうかということを含めて詰めているところ  
です。来年の3月くらいからいろんなものを順次実装していきますが、経費が一定かか  
ります。一つのモデルケースになる可能性も十分にありますので、横展開が可能なもの  
などはまた県のほうにご支援いただいて、それで高知市でやってみて良ければまた横  
展開ということを考えていただけるようにしていきたいと考えているところでございま  
す。

あと高齢者の方々にデジタルといいますと、どうしても敬遠しがちになりますので、高  
齢者の方々にどのように利用していただくかというのは国全体の大きな課題となつて  
おります。県の中でもいろいろと後押しをしていただきながら、高齢者の方々の利用促進につ

なげていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(濱田知事)

デジタル化の関連は、県のほうも今年の3月にデジタル化の推進計画をバージョンアップしまして、それまではどちらかというと行政とデジタル化というのが主眼であったのですが、もう今内閣替わりましたけど菅内閣がデジタル庁を一丁目一番地でやるというような状況を踏まえて、産業分野もそうですし生活に関わる分野でデジタル化をぜひやっぺいこうということと、国の施策にも呼応しまして、お話もありましたけれど光ファイバー網を県内で、今回の国費の事業を活用して広めていこうと。光ファイバー網は99%を超えるくらいを今年度末は県内でも達成という方向で整備を進めていくということですが、こうした中でどういうコンテンツを展開していくかという段階になってきているということだと思います。お話にありました鏡・土佐山地域におきます取組が特に中山間地域の県内でもモデルケースとして、その他の市町村のお手本になるような優良事業になり得るものではないかというふうに今拝見しております、今からこの詰め作業を進めていかれるということだと思いますけども、来年度具体的な事業化に向けて事業の効果や、他の市町村にどういう横展開ができそうだという観点から、お話もお聞かせいただきまして、県としてもどういう形で応援ができるのか、ご相談をさせていただければというふうに思います。

それからもう一点お話がありまして、特に高齢者の方々などのようにデジタル技術になかなか馴染みにくいといいますが、デジタルデバイドの対策のことに关してみますと、今年度から国の事業がスタートして高知市、南国市、土佐市の携帯ショップなどで高齢者の方々にデモンストレーションしながらスマホ、携帯を使ってもらおうというような事業も始まっているというふうにお聞きしています。また、日高村ではスマホの100%普及目指して、auさんだっぺいと思っておりますが、キャリアさんと組んで高齢者の方々に講習会も実施をするというようなやり方をしているということもお聞きしています。こんな事例を参考にしながら国のほうも事業に乗り出しているということもありますし、市町村の皆様やあるいは携帯電話会社、そういったところとうまく連携を図りながらデジタルデバイド対策を県としても後押ししていきたいと思っております。

私のほうからデジタル化関連ではマイナンバーカードの普及に关しまして、これもぜひ一緒にさらに取り組んでまいりましょうというお話をさせていただきたいと思っております。今回この点につきましては、松島副市長が色々なところでリードしていただいているのだと思いますけれども、高知市におかれましては懸案でありました住民票のコンビニ交付というサービスもご決断をいただいて、来年の3月からは動くというふうにお聞きしておりますし、カードの早期の発行のための新拠点も設けていただくとか、ワクチン接種の会場の中でもマイナンバーカードの出張申請の受付をさせていただくという形で色々な形で手を尽くしていただいているというのは、本当に有り難いことだと思っております。今後のデジタル社会の基礎インフラがこのマイナンバーカードの取得者の増加というところにかかっている

ということだと思しますので、引き続き県市で連携をして取り組めればと思っておりますし、国のほうも色々な取組が矢継ぎ早にあり、当面来ますのはマイナンバーカードの健康保険証利用が本格的に始まるとか、運転免許証との一体化ですとか、スマホ搭載ですとか、色々なスケジュールが国のほうでも組まれているということでもあります。また、これもどういう形に落ち着くのかはありますけれども、ワクチン・検査パッケージもマイナンバーカードを申請時に使うような枠組みでという話があり、こういったことを考えても、国も、やはりマイナンバーカードというのを基礎にしている、行政サービスのデジタル化をしていこうという方向になると思しますので、県内でも人口の半分が住んでおられる高知市のエリアでも、マイナンバーカードの普及を進めていただくということが大きな意味があると思っております。県としてもしっかり連携をして取り組んでまいりたいと思しますので、引き続きこの勢いでどうかよろしくごお願い申し上げます。

(岡崎市長)

全国的に、特に県庁所在地でいいますと、高知市のマイナンバーカードの交付率はまだまだ低い状況ですので、マイナポイントのときに集中的に申請いただいた分を先にお渡しをしないといけませんので、デンテツ・ターミナルビルにカードセンターを設けまして、優先的にお渡しをするという形にしました。その目処が大体つきましたので、今後は、出張申請ということで、例えば大手量販店などへ行って勧誘することなどにも取り組んでいくということを検討しています。

それから、先ほどご紹介されておりましたコンビニ交付についてですが、400円の窓口手数料をコンビニ交付の場合100円下げて300円にしました。市議会で一部反対がございましたが、これは議決されました。窓口の職員の方々の感染を防ぐため、できるだけ非接触型のほうに誘導したいということで、進めていきたいと考えています。マイナンバーカードは、個人の皆様方のサービスを受ける一つの方法ということで、まだ課題もありますが共に進めていきたいと思っております。

(司会)

それでは、四つ目の議題でございますが、カーボンニュートラルの実現について知事からお願いします。

(濱田知事)

お配りをさせていただいている資料の最後のほうに、脱炭素社会推進アクションプランの概要が2枚付いていると思うので、これをご覧いただきながら、お話をお聞きいただければと思います。これも国のほうで今年の秋に当時の菅総理が2050年のカーボンニュートラル実現を目指していくということを宣言され、12月の県議会で私のほうからもこの宣言をさせていただきまして、高知市でも本年5月に表明されたというふうに伺っています。

2050年の目標の話であります。当面、何をしていくかということで、このアクションプランを作ろうということで、8月25日にアクションプランの骨子を有識者などで構成されます外部委員会に提示をさせていただきます。意見をいただきまして、また今、県民の皆様から広く意見を募集しているというところであります。

右側にありますアクションプランの取組として3本の柱を真ん中辺に書いていますが、一つがCO<sub>2</sub>の削減に向けた取組で、省エネや再生可能エネルギーの活用というメニュー。

それから、柱の2番目がグリーン化関連産業の育成で、ここがかなり今回の菅政権の下での大きなパラダイムシフトを狙ったところではないかと思うのですが、従前ですと、こういった地球環境問題というのは、それを進めていくと経済の成長の上ではブレーキになってしまうのではないかというお話がありましたが、今回はグリーン化をやるということで、そのための技術革新を相当な投資を公のお金も入れてやっていき、グリーン化をしていくことで経済も成長をさせていく。経済と環境を好循環で回していく方向性を国としても出していますので、これにぜひ高知県も乗っかっていこうということが柱の2点目です。

3点目がSDGsを意識したオール高知での取組の推進ということでして、特に産業界、事業者さんは今SDGsに非常に大きな関心を持っていただいていますので、そういったものとタイアップをして、オール高知でいろんな関係者が県民ぐるみで総参加のような形で、グリーン化というのを進めていこうという中身になっています。

2枚目をご覧くださいますと、そうした中でできるだけ高知県らしいアクションプランにしようということを私としては訴えておりまして、特にこの二つ目に、再生可能エネルギーは、高知の日照量や降水量など自然の豊かさを考えると、日照を使った太陽光発電とか、水、水力発電等々ということもありますし、三つ目にあります森林資源をいかした木質バイオマスというようなところの発電をやっていくということ。それから、この上の豊富な自然資源の五つ目の丸にありますグリーンLPガスの生産技術、これがいわゆるプロパンガスですね。大都市部は都市ガスがメインで、グリーン化は、かなり都市部中心に多分やっておられるんですけど、プロパンガスにかなり依存しているのは、どちらかというところのほうですね。高知県もそうして、それを今のメタンから作っていくのではなく、木質バイオマスとか海藻とか、マリンバイオというんですか、そういうものを使って、グリーンなプロパンガスを作っていこうと。近未来的な技術開発になりますが、こういったプロジェクトを本県でも研究者が関与されているというふうにお聞きしていますので、こういったところに県もコミットをして、後々の産業化というふうなことも視野に入れて、ぜひ研究を後押ししていこうというようなことを高知県らしい取組ということで、やっていこうと考えています。

そして、下にあります特に森林面積率84%の高知県で、これは全国1位でありますので、林業を振興して木材の利用拡大を都市部でやっていくということも、後押しをしていくというのが、この吸収源対策という意味でカーボンニュートラルに貢献できるんです。とい

うような話をさせていただいていますし、一番下にあります率先垂範ということであると、具体的には来年度予算を見込んだ話かなとは思っていますけど、公共施設への太陽光発電の導入とか、公用車を電気自動車に入れ替えていくといったようなことも率先垂範、隗より始めよで、行政として努力しないといけない分野だといったような話を提案して、年度内にこれをまとめていこうということでやっています。加えて国のほうでも、地域脱炭素ロードマップというのを作りまして、先行地域を全国に 100 か所程度公募選定をするというような動きもありますし、そういった所を対象に新しい交付金制度を作ろうというような情報も入っております。

こうした国の動きを踏まえて、できる限り活用をできるものはしながらカーボンニュートラルの実現に向けて、オール高知で官民挙げて取り組んでいきたいというふうに考えておりまして、その意味でいつも申し上げまして恐縮ですけど、県内で人口でも半分、いろんな産業活動といえば、大きな比重を高知市さんが占めておりますので、カーボンニュートラルの分野でも、県市の連携強化というのをぜひ進めていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

(岡崎市長)

5月14日にゼロカーボンシティの表明を行いました。ハードルは結構高いのですが、高知市の地球温暖化対策地域推進実行計画の中でも、2030年度までに43%の削減を掲げておりますので、これを具体的に落とし込んでいかなければいけないという作業があるのですが、そういう目標を掲げております。

CO<sub>2</sub>の部門別というのがありまして、家庭部門とか運輸部門とかそれぞれありますが、一番高いのは「業務その他部門」いわゆる事業所関連の部分で、28ポイントということで一番高くなっています。余り知られていませんが、高知市は、清掃工場と下水道施設を持っていますので、市内では、実は2番目にCO<sub>2</sub>を排出している事業者でもありますので、我々自体も「業務その他部門」におけるCO<sub>2</sub>の大きな排出者であるので、これをオフセットしていかなければいけないということです。清掃工場で毎日ごみを焼却していますが、焼却すると熱になりますので、ガスタービン回して発電しています。今は、売電しており、2億以上の収入がありますが、カーボンオフセットをしなければならないので、売電するのを見直して、自家消費ならカーボンオフセットができるので、今そういったことを検討しております。

家庭部門におきましては、クールチョイスという運動をしており、スポンサーもついてきている状況なので、さらに進めていきたいと思っております。

それから、高知市内には、いろんなバイオマス発電があります。それからヤシ殻活性炭を燃やして発電しているものもあります。実は、多様な発電所が結構ありますので、そういうものを含めて先ほどの脱炭素先行地域の選定など、まだ詳細がよく分かっておりませんが、いろいろと検討していますので、よろしく申し上げます。

(司会)

それでは、次の(5) 地域共生社会の実現ということで、市長からお願いできればと思います。

(岡崎市長)

社会保障関係ですが、2025年の段階で人口で一番多い団塊の世代が75歳以上に入ってきますので、そこからが大変になるということを見据えながら、地域共生社会の構築に向けての作業に入っております。

相当範囲が広いので、各部長が集まった本部組織で動かすようにしています。1枚、ポンチ絵を資料の最後のほうに入れておりますので、何をやろうとしているのかということでご参考に見ていただけたらと思います。国からは、重層的支援という言葉がよく出ていますが、ただ、重層的支援というのは非常に分かりにくいので、余り好きな言葉ではないですが、我々も地域共生社会の中できめ細かくスキームを作っておこうということで、準備をしております。

一つは、薬剤師会が非常に協力的です。資料の左の下のほうに、ほおっちょけん相談窓口というのがあります。薬局は地域にたくさんありますし、専門家がいますので、地域住民の方々に何か困りごとなどがあるときに気軽に相談できるほおっちょけん相談窓口を設置するというものです。薬剤師会は非常に協力的で、「じゃあ、やりましょう」ということで、現在、市内10地区に59か所設置できています。令和4年度には、全市展開を予定しておりますので、地域住民の方々の困りごと解決に向けた一つの相談の入口になる、ゲートになるということにしています。

それから、貧困の問題もあります。難しい相談が多く、障がいがあったり貧困があったり複合的な課題を抱えた相談が多いので、いろんな情報を庁内でも共有して対応する必要があるということで、庁内で包括的相談支援員を9名任命をしております。それと、高知市社会福祉協議会の中に別途、地区別にしているのですが、各中学校区に1名ずつぐらい地域福祉コーディネーターを置いております。これが17名、動いております。

目指すところは、全て一度に解決しようと思うと無理がありますので、できるだけ広く相談を受けて、それを専門機関へつなぐということに取り組もうとしております。各職員が抱え込んでしまうと、燃え尽きてしまうということも福祉の現場ではままあるので、きちんと専門機関につないでいくことをベースにしております。県のほうでも、ここ数年の間にいろんな機関ができておりますので、県の専門機関がある場合は、まずそこにつないでいこうということを主題にしております。貧困も含めて複合的で非常に難しいご相談が多いので、月1ぐらいで個別ケースの支援に向けた情報交換会というのをやっておりますので、今後、そういうものを充実させていきたいと思います。イメージでは、そこにありますポンチ絵に書いていますが、こういう形のものを複合的に作っていくという作業

に入っていきます。これを基本的には小学校区ぐらいに落とし込んでいきたいということを考えています。また、各地域でも、地区カルテというのがこの中にありますが、地区カルテの中で、地域で部会を三つぐらい作っていただいて、例えば、地域福祉部会とか、地域防災部会とか、そういうイメージで、地域とご相談していこうと思っているところです。

(濱田知事)

お話にありましたように、行政は制度がどうしても縦に割れてるところが正直あって、高齢とか障害とか児童、生活困窮、それぞれそれなりにというんですか、制度は構えていますが、なかなか隙間に落ちてしまうとか、うまくつなげないというのが大きな課題であるというところは、私自身も同じところに問題意識があります。今回、市長のほうで地域共生社会の実現という旗を立てられて、今、お話ありましたようなコーディネート機能を、つなぐ機能を整理していこうというのは、大変意欲的な取組だというふうに受け止めております。

今、県の地域福祉の支援計画の中でも市町村におけます包括的な支援体制。言葉としては、こんな言葉で命題として掲げて、市町村を応援していこうということで、県の社協とも連携をしまして色々なセミナーや、ブロック別で会議をして各市町村とも相談して取り組んでいるわけでありまして。今、お話がありましたような形で、ある意味、都市的な形態ならではの悩みだったり、それに対する解決だったりということがメインになるのかどうかは、ちょっとこれまた状況をお聞かせいただきたいとこだと思いますが、ぜひこうした形での取組の状況をまた我々にも教えていただいて、県内の他の市町村で横展開というんでしょうか、生かした形で展開ができるようなものがあれば、他の市町村にとってもお手本になるということだと思っております。そうした形で県内全域へのフィードバックということもできていければ有り難いなと思っております。よろしく申し上げます。

(岡崎市長)

まちづくりは、いろんな切り口があって、特に高知の場合、防災のまちづくりということで市民の方々の意識が高いと思っております。それに福祉のまちづくりを加味したいと思っております。防災は、それはそれで機能するのですが、これから超高齢化社会になっていくので、もう一つの支援として、福祉のまちづくりというものを落とし込んでいきたいと思っております。できれば小学校単位ぐらいで落とし込んでいきたいというイメージを持っています。

(司会)

それでは、(6) のヤングケアラーへの対応について申し上げます。

(濱田知事)

最近、注目を集めておりますヤングケアラーの問題です。

これは、年齢層的には若い子ですけれども、先ほど来のいわゆる包括的な支援体制というんですか。縦割りの制度のはざまに落ちていかないようにというところで、大事な問題の一つではないかと思っています。これは、県議会でも昨今、大変議論が盛んでありまして、それを受けまして県でも、日本一の健康長寿県構想の中に、このヤングケアラーの問題をしっかりと位置付けて対応しようとしています。

特に、具体的に本年度は学校のスクール・ソーシャル・ワーカーと、市町村なども含めました行政の児童福祉部門ですね。この連携強化を中心に取り組もうということで、今は活動しておりますが、特に今月中に県庁内にもプロジェクトチームを作りまして、このヤングケアラーの問題について啓発、研修、それからサービスの適切な運用といったことについて、検討を進めるというようなこと。また、来年度に向けては中高生を対象とした実態把握のための調査も、インターネットを使ってやるというようなことも、今、検討をさせていただいています。

そういうところの延長でありますので、幅広く、今、お話にありました、ほおっちょけん相談窓口を通じてヤングケアラーの問題も把握をされて、今まで見過ごしがあつたような問題も把握をして、解決を図っていくというようなことができれば大変すばらしいのではないかなというふうに思っております。今、地域の相談窓口で子供の問題が持ち込まれるというようなことになった場合に、どういった形で支援につなげていくというようなイメージで検討されているのかなということは、お伺いできれば有り難いというふうに思っています。

(岡崎市長)

ヤングケアラーはまだ多分、定義自体が国もはっきりとしてないと思いますが、ヤングケアラーとして親の介護に当たったり、例えば親族の中に障がいのある兄弟がいて、そのお世話をしているとか、いろんなケースがあるので、本人自体余り自覚がないと思います。家族ですので当然いろいろ助け合いがあるのですが、そのことによって学校の就学にいろいろ影響がありますので、いろんな課題が発生する部分もございますので、まず、そういう実態の把握と早期発見が重要になるのではないかと思います。専門的には要保護児童対策協議会の支援体制とかもあるんですが、それ以外でも先ほどの包括的相談支援員や、地域福祉コーディネーターも動いていただいていますので、いつも連携を取りながら、早めに情報をキャッチするということが必要だと考えております。

もう一つ、県の支援をいただいていたと思いますが、スクール・ソーシャル・ワーカーについては、中学校区を中心に、16名配置をしております、いろんなアンテナを張りながら、月に2回ほど集まって情報交換して、特定の学校だけで情報がとどまらないようにしています。また、学校現場で例えば修学旅行に行かない、もしくは行けない子供たちがなぜ行

けないのかということなどを含めて、一番大事なものはできるだけ早くキャッチしていただくということなので、そういう意識を持っていただけるように、いろんな場で、教師を含め、現場の話をしていただければと思います。

(濱田知事)

正しく学校の現場でこの問題もしっかり理解を深めていくということも大事だと思っていますので、県の教育委員会でもそうした研修を、またどんどん先生方にしていくというような努力も始めておりますので、今後もこのヤングケアラーの問題に関しても県市でしっかり連携できればと思っています。よろしくお願いします。

(司会)

予定の時間ちょっと過ぎてはいますけれども、最後の議題でございますネウボラお願いいたします。

知事からお願いいたします。

(濱田知事)

この問題もある意味同じような文脈の話でして、子育ての支援に関しても、いわゆる母子保健の世界と保育の世界において、切れ目のない相談体制づくり、支援体制づくりをしていくというのが昔からの課題でもあります。県庁の本庁の部制も、今年度から子ども・福祉政策部というような新しい体制になっており、切れ目のない子供の支援と高知版ネウボラを取組を進めていくということでありまして、各市町村におきます母子保健・子育て支援・児童福祉、それをさらには教育、こういったところの部門間の連携強化をサポートするなど、そのためのアドバイザー派遣をしているところでございます。高知市さんにおきます、そういった観点からの取組についての現状や課題について、お聞かせいただければということで提案させていただきました。

(岡崎市長)

妊娠期から切れ目のない支援を重点としておりますので、子育て世代の包括支援センターを北部地域で塩田町の保健福祉センターに今年度中にもう一つ作るようにしており、これができますと、市内で4か所となります。全ての妊婦さんと面接をして、いろいろなご相談を受けようということにしておりますので、保健師・助産師、また母子保健コーディネーターの方々に、全数面接と言っていますが、お一人お一人全て会うという形で、いろんな問題とか課題が結構分かりますので、これをやろうということにしております。令和3年度中に北部の新しい子育て世代包括支援センターができますので、さらに充実をさせていきたいと考えています。

家庭環境の問題を含めて、ケアの必要な子供たちを例えば学校とか保育園でもできる限

り預からなければいけないというような新しい法律ができていますので、そういったことを含めて、やはり妊娠期から一定情報を得るということも重要になりますので、我々も非常に注意をしながら対応していきたいと思っております。

長浜に県外でも有名な助産院があって、そこで子供を産みたいために移住をされてこられた方も何人かいらっしゃるということでしたが、残念ながら、お産の部門をやめられたと聞いております。そういう所を頼って県外からわざわざ来て出産されて、高知に移住されたという方がおられるわけですし、そういう方々がネットワークを大切にしているというように思います。

(濱田知事)

引き続き、高知版ネウボラを取組、高知市とも連携を進めていきたいので、よろしくお願ひします。

(岡崎市長)

はい、よろしくお願ひいたします。

(司会)

以上で全ての議題をご協議いただきましたので、高知県・高知市連携会議をこれで終わりにさせていただきたいと思ひます。

どうもありがとうございました。